実践で学ぶLLMとRAGアプリ開発入門【会場】（4126227）

AI開発の一歩を踏み出すための講義と実習を組み合わせた2日間のセミナーです。開発に必要な知識の土台を固めつつ、ノーコードツールDifyを用いたRAGチャットボットアプリ開発を行います。

開催日時	2026年6月18日(木) 10:00-17:00会場 2026年6月19日(金) 10:00-17:00会場
JUAS研修分類	データ・AI活用・技術動向(AI・新技術　検証)、データ・AI活用・技術動向(IT利活用（ローコード、市民開発など）)
カテゴリー	IS導入（構築）・IS保守 専門スキル
DXリテラシー	What(DXで活用されるデータ・技術)：デジタル技術　How(データ・技術の活用)：活用方法・事例
講師	石岡卓也 氏 （株式会社調和技研　　研究開発部 AI技術開発 第二グループ ） 北海道大学大学院にて博士（情報科学）を取得後、ソニー株式会社にて複雑ネットワークや新規事業の研究開発に従事。 その後、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社にて推薦システムやコンテンツの自動分類、歌詞の自動作成などの研究開発を担当した。 調和技研では言語系AIの受託開発や人材育成事業を担当。金融分野においてLLMを応用するプロジェクトに参加し、 解決策の提案やコンセプトの検証等に関与。AI教育と地域課題の解決を目的とした「札幌AI道場」において技術担当として、教材作成やセミナー実施、チームのメンター等に従事している。
参加費	JUAS会員企業/ITC：70,400円 一般：90,200円（１名様あたり　消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数2枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NBF東銀座スクエア２F）
対象	・情報システム部門、IT担当の方で今後自部門や業務部門にAI活用を推進していこうと考えている方 ・生成AIに関する基本的な概念や用語は知っているが具体的に手を動かして理解を深めたい方 コース 初級
開催形式	講義・個人演習
定員	12名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
特記	演習を行うための、PCをご準備ください。 ・インターネットに接続可能 ・Difyのアカウント登録可能 　Difyのアカウント登録のために、登録時に受信確認できるメールアドレスが必要です。 　第１日開催7日前に受信確認できるメールアドレスにDifyの招待メールを送付します。
ITCA認定時間	12

主な内容

■受講形態
会場のみ（オンラインなし）
■テキスト
当日配布
■開催日までの課題事項
ツール接続テスト：演習を行うための、PCをご準備ください。
・インターネットに接続可能
・Difyのアカウント登録可能
　Difyのアカウント登録のために、登録時に受信確認できるメールアドレスが必要です。
　第１日開催7日前に受信確認できるメールアドレスにDifyの招待メールを送付します。

開発に必要なLLMの知識の土台を固め、ノーコードツールDifyを用いたRAGチャットボットアプリ開発のハンズオンを行うセミナーです。
「AI活用を進めたいが、何から始めればいいかわからない」
「LLMやRAGという言葉は聞くが、仕組みまで説明できない」
「PoCを企画しようとしても、技術的なイメージが湧かない」
そんな情報システム部門・IT担当者・AI導入担当者の方のための実践型の内容となっています。
仕組みを理解して自分で簡単なAI/RAGアプリを開発できるようになることで、AI導入の第一歩を踏み出せます。

■ゴール
自部門へのAI導入に向けて以下を達成することを目指します。
・AI/RAGの基本的な用語や概念を理解し説明できるようになる
・Difyなどノーコードプラットフォームを使って、簡単なAI/RAGアプリを自分で開発できるようになる
・AI/RAGを活用したPoCを企画できるようになる

■プログラム
＜1日目＞
1）オリエンテーションとAIの基礎
- セミナー全体について
- AI技術の基本（AIの歴史、ディープラーニング）
2）生成AIとChatGPTについて
- 画像生成AI
- 大規模言語モデルとChatGPT
3）ChatGPTハンズオン演習
- プロンプトについての解説
- プロンプトの演習
4）DifyによるRAGの開発演習
- RAGの開発についての解説
- 簡単なRAG開発の演習
5）Difyの演習とPoCプロジェクトについて
- Day2のDify演習について
- PoCプロジェクトについて

＜2日目＞
1）Difyについて
- Difyを用いた開発について
- チャットボット、テキストジェネレータ
- ワークフロー、チャットフロー
2）Difyのハンズオン
- Webから情報を入手してテキストを生成する例
- 必要な情報を集めてからテキストを生成する例
3）まとめ

＜参加者の声＞
・AIの歴史から学ぶことなど今までなかったので、2日間の研修を受講するのに導入として入れていただき全体の理解がしやすくなった。
　Difyも実際に動かせてよかった。
・生成AIの歴史と基本的な考えについてのレクチャーがあるので、改めてDifyを導入することの意義について再確認できた。